

## 学齢期の教育について（三輪建二）

子ども・大人の「生きる力」

働くこと、調理をすること、修繕をすること、そのための道具を磨いておくこと、育てること、教えること、話しあい取り決めること、看病すること、介護すること、看取ること、これら生きていくうえで一つたりとも欠かせぬことの大半を、ひとびとはいま社会の公共的サービスに委託している。（中略）これは福祉の充実と世間ではいわれるが、各人がこうした自治能力を一つ一つ失ってゆく過程でもある。ひとが幼稚でいられるのも、そうしたシステムに身をあずけているからだ。

サービス社会はたしかに心地よい。けれども、先にあげた生きるうえで欠かせない能力の一つ一つをもういちど内に回復していてゆかなければ、脆弱なシステムとともに自身が崩れてしまう（中略）。『地域の力』といったこのところよく耳にする表現も、見えないシステムに生活を委託するのではなく、目に見える相互のサービス（他者に心をくばる、世話をする、面倒をみる）をいつでも交換できるよう配備しておくのが、起こりうる危機を回避するためにはいちばん大事なことだと告げているのだろう。

鷲田清一・内田樹『大人のいない国』プレジデント社、2008

### 1 子どもの基礎学力

### 2 子どもの「生きる力」



- ・人間関係能力、コミュニケーション能力
- ・世代間交流
  - 上級生と下級生／小学生と大学生
  - 子どもと年長者（おじいちゃん・おばあちゃんを知らない子ども）
- ・異文化間交流
- ・ボランティア活動

『平成22年度「現職研修」の記録』（お茶の水女子大学）より

#### 事例1）福井市立至民中学校

- 異学年交流のクラスター制度、70分授業
- 市民ボランティア

#### 事例2）大阪府熊取町アトム共同保育園（大人が育つ保育園）

- ・保護者懇談会で子どもの様子を保護者、保育士が赤裸々に話し合う（プライバシーなし）  
「懇談会で保護者が育つ」
- ・職員会議で保育士が育つ（赤裸々な意見交換）  
子ども、保育士、保護者、地域の人びとの間の重層構造（学び合いの構造化）

#### 事例3）文京区本郷児童館ボランティア（報告書を参照）